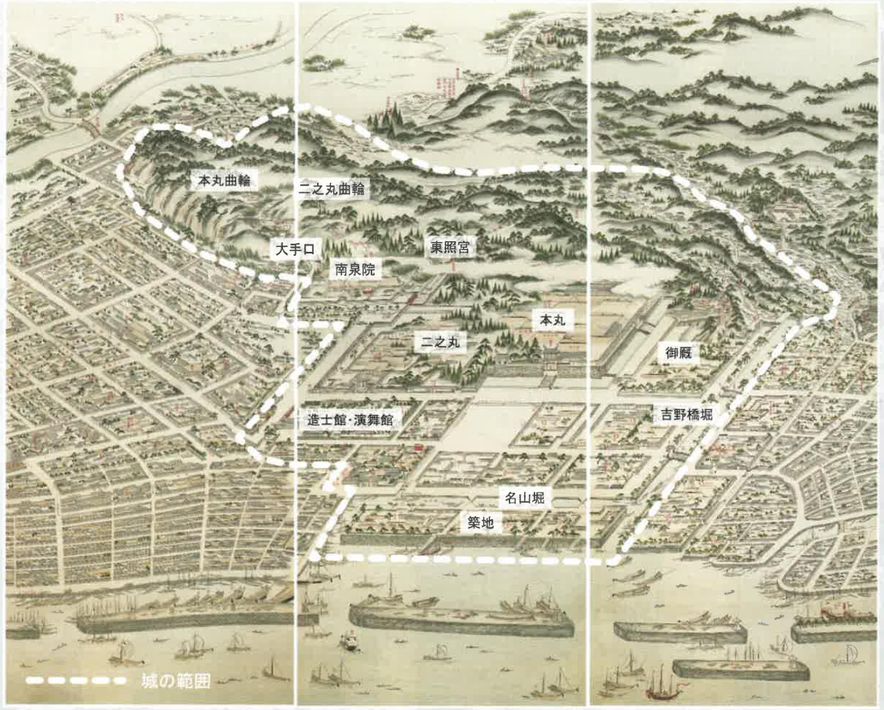
鹿児島城について



「鹿児島城下絵図屏風」（玉里島津家資料）

鹿児島城跡は、慶長6年（1601）頃から初代薩摩藩主島津家久（いえひさ）によって造られ、江戸時代を通じて薩摩藩の政治・文化の中心でした。

城山（しろやま）の山城部分とその麓（ふもと）に広がる屋形部分からなる城で、その範囲は、城山から当時の海岸線（現在のみなと大通り）までと広く、総面積は約85ha（東京ドーム約18個分）もありました。山城部分である城山が、鶴が羽を広げたように見えたことから、明治時代以降は鶴丸（つるまる）城の名称で親しまれています。令和5年3月には、本丸跡を中心とした一部が国史跡に指定されました。

Map

自動車・バイク・自転車でお越しの方は、❷ 西門をご利用ください。
❶ 御楼門および ❸ 北門は、歩行者のみ通行可能です。（車椅子での通行は危険です。）
車椅子で来場される方には、駐車場まで車でお越しいただくことをお勧めしております。

御楼門通行可能時間　黎明館開館日の6:30 ～ 18:00（休館日は通り抜けできません）

御楼門について

御楼門は、鹿児島城の本丸正面に位置していた城のシンボルでした。明治6年（1873）に火災で焼失しましたが、官民一体となって復元に向けた取り組みが進められ、令和2年3月に完成しました。

Access

- 鹿児島空港 から
  鹿児島市内行きバス「市役所前」下車、徒歩7分
- JR鹿児島駅 から
  徒歩15分
- JR鹿児島中央駅 から
  市電・バス「市役所前」または「水族館口」下車、徒歩7分

無料駐車場あり（普通車125台　バス20台）

黎明館休館日
月曜日（祝日の場合は翌平日）/毎月25日（土・日・祝日の場合は開館）/12月31日～1月2日/そのほか、館が定める日

令和6年（2024）8月発行

Kagoshima Prefectural Museum of Culture Reimeikan
鹿児島県歴史・美術センター黎明館
〒892-0853　鹿児島市城山町７番２号
☎099-222-5100　FAX:099-222-5143
HP:htts://www.pref.kagoshima.jp/reimeikan/

Follow us　最新情報はSNSで!

＼奥深い、石垣の世界へようこそ！／

鹿児島城跡 石垣ガイド

鹿児島城跡の石垣を楽しむ

Keyword キーワード

御楼門や堀の周辺を散策する際は足下にお気をつけください。

観察してみる

鹿児島城跡の石垣は、多種多様！
じっくり観察すると、その違いが見えてきます。

写真に撮ってみる

御楼門周辺は絶好の撮影スポット！
お気に入りのアングルを探してみましょう。

当時に思いを馳せてみる

あの偉人も、この石垣を見ていたかもしれない!?
石垣に刻まれた歴史を、ぜひ感じてください。

鹿児島城跡の石垣を知る

Keyword キーワード

同じように見えて、実は違う!?

鹿児島城跡には、石垣をもつ武家屋敷（ぶけやしき）が多く立ち並んでいました。それらの石垣は、明治10年（1877）の西南戦争や大正3年（1914）の桜島大噴火にともなう地震、第二次世界大戦等を通してほとんどが失われました。現在は、鹿児島県歴史・美術センター黎明館がある本丸跡や、鹿児島県立図書館がある二之丸跡、鹿児島医療センターがある御厩（おうまや）跡しか残っていません。本丸跡の石垣も、築城当時の姿ではなく、これまでに何度も修復されたことがわかっています。現在残っているのは、数々の戦乱や災害を乗り越えた石垣です。そのため、同じように見える石垣ですが、様々な積み方を見ることができます。

Kagoshima Prefectural Museum of Culture Reimeikan
鹿児島県歴史・美術センター黎明館

みどころ満載

鹿児島城跡石垣マップ

1 御楼門に向かって左手の石垣

やや加工が荒い割石を布積み（横方向に積む積み方）という積み方で積んでいます。石垣と石垣の間に隙間があり、間詰石が見られます。

2 御楼門に向かって右手の石垣

布崩し積み（横方向を目指しながらも所々横目地が通っていない積み方）で積まれています。加工した切石が隙間なく積まれています。

3 金場取り残し積み目地漆喰

石垣表面の縁取りだけが一段彫りくぼめられています。このような技法を、金場取り残し積みといいます。目地には漆喰が施されおり、見せることを意識しています。

WORD

割石
削りだした後、割って加工した石材。

切石
掘り出した石材を切って加工した石材。もしくは、石垣を隙間なく積むために、接地面をより細く加工した石材。

目地
接地面。もしくは石と石の継ぎ目。

4 刻印

鹿児島城跡では数少ない刻印をみることができます

石に刻まれた記号や数字を刻印といいます。家紋、○△□などの幾何学的な記号、鬼門除けの五芒星、石垣を積む順番の数字、石工の印など、刻印には様々な種類があります。

5 西南戦争の砲弾痕・銃弾痕

＼2度の戦争を経験した貴重な石垣／

発掘現場で確認された砲弾の破片

御楼門周辺の石垣には、無数のくぼみが見られます。これらのくぼみの多くは、西南戦争（明治10年（1877））の際に、砲弾や銃弾を受けた痕跡（砲弾痕・銃弾痕）です。現在もくぼみの中には、撃ち込まれた砲弾の破片が残っているものもあります。また、第二次世界大戦の銃撃の痕跡が一部含まれていることもわかっています。

SPOT

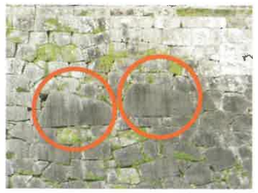
足をのばして行ってみよう！

黎明館北側にある私学校跡（江戸時代は御厩、現在の鹿児島医療センター）の石垣にも、西南戦争の砲弾痕・銃弾痕が多く残っています。

MEMO

鹿児島城跡の石垣の石材には、溶結凝灰岩の一種である反田土石（約50万年前の吉野火砕流の堆積物）が使われています。加工がしやすく、灰色なのが特徴です。石垣に使われるのは全国でも珍しく、火山が多い鹿児島ならではの石といえます。

14 鏡石



鏡石は、権威の象徴や経済力の誇示などのため、他よりも大型の石材を用い、虎口（出入口）や本丸天守台など目立つ場所にあることが多いのですが、鹿児島城跡の場合は、石垣の中ほどに見られます。もともと御楼門付近にあったものを、修復の際に今の場所に移したと考えられます。

13 隅欠

北東の隅部は、鬼や災いなどが出入りする方角（鬼門）です。そのため、石垣の出隅を欠いて入隅とし、鬼や災いなどが入ってこないようにしていたと考えられます。

16 地下から現れた堀石垣

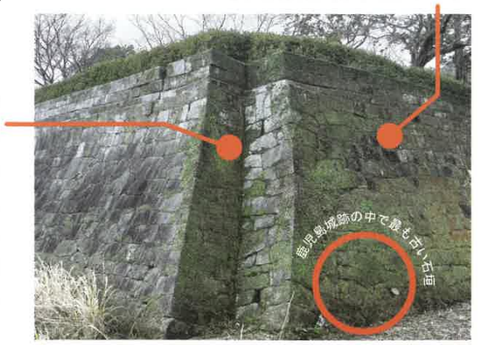
本丸・二之丸の境の状況を確認するために行われた発掘調査では、現在の地面より約2m下まで石垣が続いていることがわかりました。地中に埋まっていたのは、本丸・二之丸の間の堀の石垣です。また、堀の水を堰き止めるための井堰遺構も確認されました。通常であれば、堀の水を堰き止める必要はないことから、この部分は堀としての役割だけではなく、幕末に11代藩主島津斉彬が造ったとされる水練場として利用されたのではないかと考えられます。

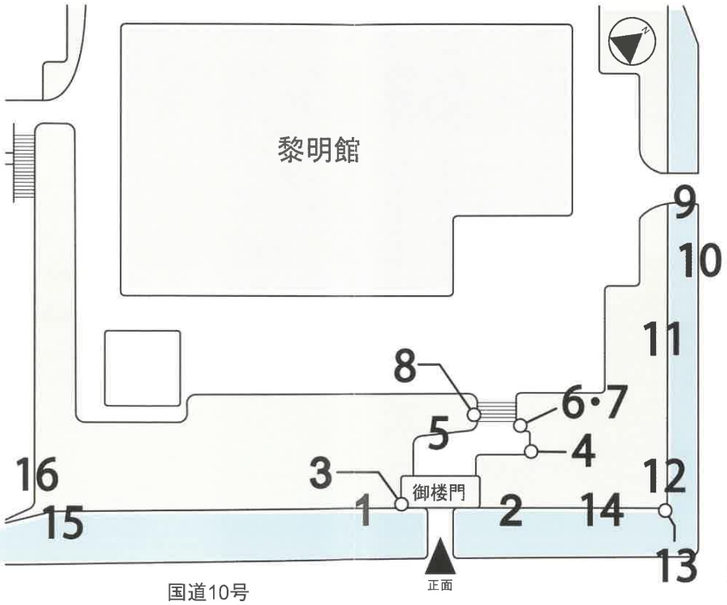
15 本丸・二之丸境の石垣

まず、本丸の石垣を造り、次に二之丸の石垣を横に積んで境目を合わせています。

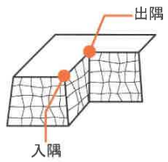
12 東隅の石垣

形や大きさの不揃いな割石を、不規則に積んでいます。





御楼門周辺は、様々な加工痕が残されています



6 江戸切り

石垣出隅（石垣の出張った角）部分の稜線を一定の幅で削り、美しく見せています。これを江戸切りといいます。石垣を積み上げた後に施工されています。

7 キオイ

石垣出隅の天端（石垣の最上段）付近が反り返っています。これをキオイといいます。琉球のグスク石垣に見られる技法です。

8 亀甲崩し積み

多角形に加工した石を隙間なく積んでいます。これを、亀甲崩し積みといいます。御楼門周辺の石垣に集中して見られます。

9 土橋の石垣

北門前（北御門前）にかかる土橋（土を積み、その両側に石垣を築いた橋）の石垣。2と同様に、布崩し積みで積まれています。

11 西側の石垣

1と同様に布積みで積まれています。石材は小型であることがわかります。

MEMO

谷積み（石材を斜め方向に積む積み方）の石垣は、鹿児島電気軌道（昭和2年開通、現在の鹿児島市電）上町線の車両を通すため、もともと階段だったものをスロープにする際に積まれた石垣であると考えられます。

10 令和2年に修復された石垣

この付近の石垣は、平成27年の大雨で一部が崩れたため、令和2年に修復工事が行われました。修復にともなう発掘調査では、崩れた箇所を挟んで石垣の積み方が異なっていることが確認されました。

TRY

江戸時代の地図と照らし合わせてみよう！

古地図には何が描かれているでしょうか？
現在の姿と照らしあわせて、変わったところや変わらないところを探してみましょう。

江戸時代（天保初年頃）の鹿児島城下を描いた絵図「鹿児島城下絵図屏風」（部分）［玉里島津家資料］